

大麓莊四十年史

# 六麓莊四十年史



# 目次

はしがき

六麓荘町  
町内会長 山田六郎

われらの六麓荘

.....

1

地勢地質、気象及び気候、歴史と沿革、伝説、古墳、文学詩歌

その地名考

.....

14

六麓荘を開いた人々

.....

19

六麓荘を語る

.....

20

古老座談会

.....

27

歴代、町内会長が語る思い出話

.....

41

六麓荘ゆかりの人々

.....

58

六麓荘の現在

学校、保健・衛生、年中行事、交通機関、自治機関

61

あすの六麓荘への提言

特別地区を提唱する

大谷 哲平

72

町内会所有道路の問題

豊田善右衛門

73

理想境の保全と、その充実

山田 六郎

74

町内会規約・会員名簿

77

あとがき

80

# はしがき

六麓荘町  
町内会長 山田 六郎

## 売り家と唐ようで書く三代目



芦屋市章

芦屋、芦屋——人口約八万の国際文化都市芦屋、市域十六平方キロ。米国カリフォルニア州モンテペロ市との姉妹都市ASHIYA。旧精道村が山を背にして海に臨み、芦屋、打出、三条、津知の四部落から成り平和にして隆々として発展の勢あり、即ち山、海、四、円平、旭日——を市章としている芦屋。このようにして芦屋が全国有数の最高住宅地であることは、国内ばかりでなく、外国にも知られている。地理的条件の良さに加えて、永年の住民の努力があつて、こんなに良い市街地をつくりあげたものであるが、それも太平洋戦争によって一時、崩壊した時期もあつた。

終戦真際の昭和二十年八月ころには、全国の大中都市は殆んど焦土と化していたが、芦屋市も八月五日の大空襲で例外ではなかつた。そして十五日戦局にピリオドが打たれた。

戦後の廃墟の中から立ち上ったわが国民は、その偉大なる英知と勤勉で、嘗々として国力を充実して行つた。重化学工業を中心とするその産業構造は、驚異的な高度成長経済をもたらし、GNP世界第二位、外貨蓄積（債権を入れて）約三百億ドルという世界の経済大国に伸び

て行った。

この間、わが芦屋市も着々と戦後の復興が成り、昭和二十六年には特別法によって「国際文化住宅都市」に指定され、同年三月三日「芦屋国際文化住宅都市建設法」が公布、即日施行となり、東京の首都建設法、奈良と京都の国際文化観光都市建設法、横浜と神戸の国際港都建設法、広島平和記念都市建設法など一連の特別都市法施行の中に第十六番目の都市として加入したが、この法案要求の前段における住民投票で示した市民の総意は、芦屋を国際的なハイ・クラスの住宅都市にしようという市民の宣言であり、意思の表明でもあった。

そして三十九年五月には市民憲章が制定、「わたしたち芦屋市民は、自然の風物を愛し、町を緑と花でつつみましよう」を第一項目とした五つの項目が誓われているが、その前文には「国際文化住宅都市の市民たる誇り」を謳っている。

## 万丈の気を吐く六麓荘の存在

言うまでもなく、われわれは芦屋市民であることに大きな誇りを持っている。前時代的かも知れぬが、大正から昭和にかけては「芦屋に住んでいる」ということは「富裕と知性」の代名詞であり「東の鎌倉、西の芦屋」と対比され、芦屋マダム、鎌倉夫人という対句がジャーナリズムを賑わしたし、文豪谷崎潤一郎も「細雪」で芦屋女性の優雅さを思う存分に描いている。

しかし現在では、芦屋に住んでいる——芦屋市民であることの持つ意味とニュアンスは、ブルジョア的な自慢でなくて、よい生活環境の中に、おっとりとした住民自治があり、合理的で

キメの細かい行政サービスがあるから、此処に住む喜びをもつ——というのが一般の意識であろうが、果して今日の市政において、これが実現されているであろうか。

しかして、高度成長経済の過程を通して、国内の各都市は数々の産業公害に蔽われ、スモッグは太陽を奪い、騒音は日常生活を悩まし、環境は緑を失い河川を汚濁し、青い海はヘドロに変色して極度な自然破壊を招来している現状に対して、自然の回復、環境の保全等エコロジーの問題が叫ばれ出したのが、今日的課題である。

このことは、わが芦屋市の一部でも既に自動車の排気ガス、騒音公害の現象が起っており、騒音は一時間値で八二ホン、硫酸酸化物〇・〇五三PPMという数字を示している。

芦屋市内は既に古く昭和十年に六麓荘においては日照権の問題を解決しているし、戦後逸早くパチンコ店、ボーリング場、映画館をもシャットアウトし、十三坪を越える町工場もその存在を許されていないのである。これは恐らく全国の都市中、比類のない芦屋自体の高度文化性であろうし、こういう町ぐるみの住民運動は永く、芦屋市の先見的栄光それ自身を物語るものでなくして何んであるうか。

しかし、過去の栄光にのみ耽っているのは危ない。既に芦屋にもその徴候が現われている。高層建築が競い立ち公害は瀰漫している。芦屋も既に所謂三代日の時期に入った。「売家と唐様に書く三代目」時代に現在の芦屋は入りつつある。売家と唐様に書かないよう、われわれは市当局はじめ住民諸氏の奮起を望むためにもこの「六麓荘四十年史」を上梓した。

このとき、われわれはわが六麓荘町の誕生と、その現在に至る歴史、沿革を静かにふり返えり同時にその将来を展望する価値を認めるのである。

戸数百四十、人口約六百、その中にはスイス、オランダ、独逸、仏国、英国、米国、香港、台湾、韓国の人々も生活をたのしみ、町内会の規範のもと、整然たる生活をしている。

そこにはまだ、往年の青空がのぞき、緑が存在し、騒音も、排気ガスも絶無に近い。そして道路は見事に舗装されて、文字通り国際文化住宅都市の格調と雰囲気を保持している現代日本の理想郷！一つのユートピア社会形成であるといっても決して過言でないわが六麓荘こそ、蓋し、今日の芦屋のために万丈の気を吐き、その象徴的地帯を形成しているものと声を大にしてい言いたいのである。（昭和四十八年六月記）



緑の中の六麓荘

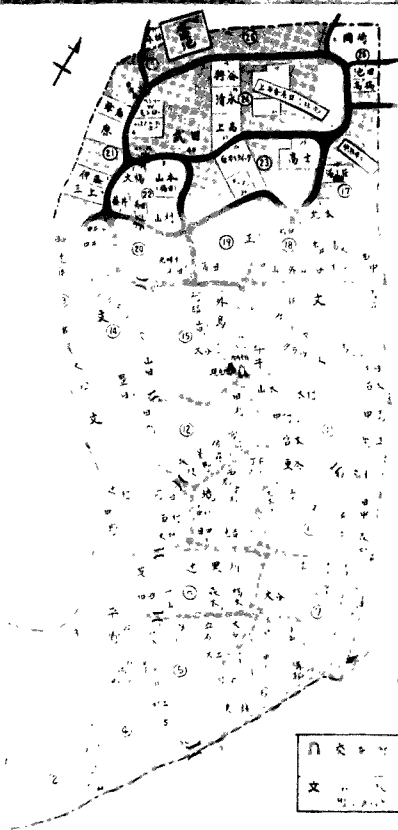




鳥瞰した六麓荘町の全景



# 六麓莊町案内図



縮尺図 1/600

〇 交差点 文 町名	〇 寺 〇 神社
---------------	-------------

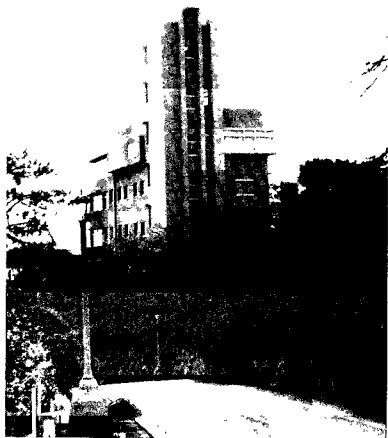
現在の六麓莊 (48年6月)



街燈の基部

昔の面影を  
現在に残している  
六麓荘の一部

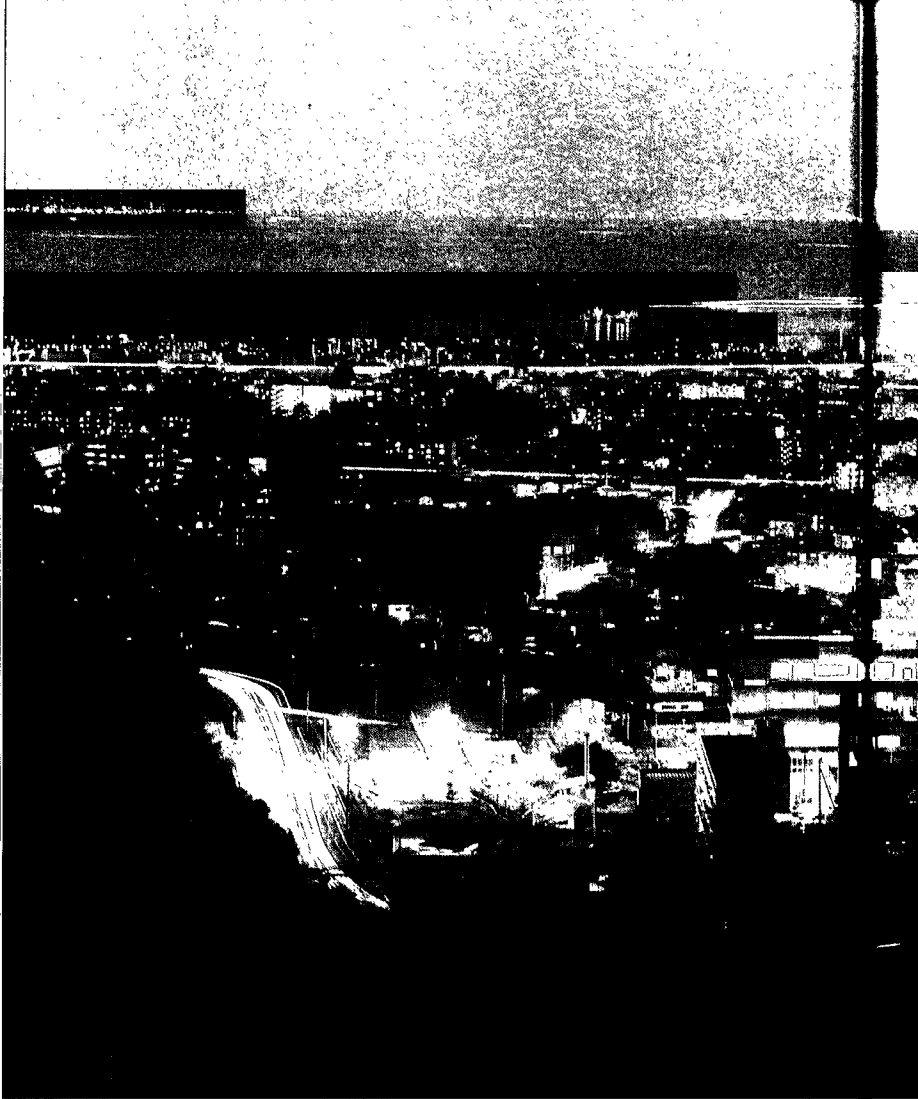
町創立当時にできた街燈の土台部で香森の街燈そっくり。いまも一部が役立っている。六つの「六」が田形を描いた中に「荘」のマークは造成した六麓荘土地開発会社の社章。



芦屋大学附近の街燈



六麓荘から見た芦屋市の夜景



# 六麓莊 I



昭和3年開発当時の六麓莊及隣地  
莊内地相の一部を眺め接続の苔楽園並に羅方夢山莊を望む  
(散在せる建物は苔楽園・遠望は羅方夢山莊)



# 開発当時の

電話地下配線工事実況



水道、瓦斯、電気地下埋設工事

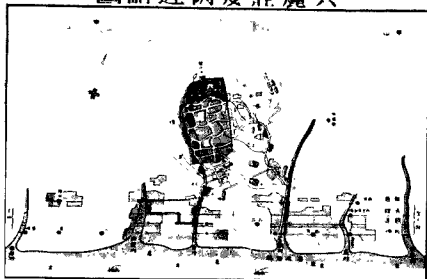


下水工事（ヒューム管埋設）



# 六麓莊 II

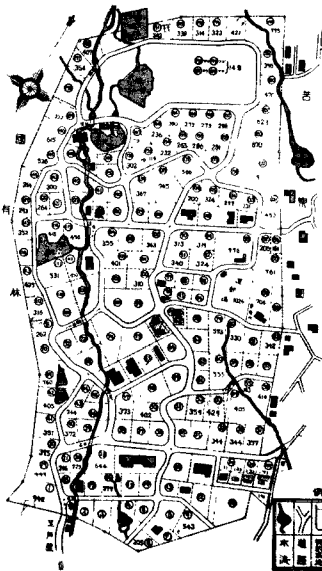
六麓莊及附近略圖



◆ 東洋一の健康地 ◆

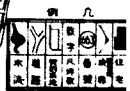
六麓莊經營地租價格表

區	段	面積	地租	備註
第一區	1	100	1000	
第一區	2	100	1000	
第一區	3	100	1000	
第一區	4	100	1000	
第一區	5	100	1000	
第一區	6	100	1000	
第一區	7	100	1000	
第一區	8	100	1000	
第一區	9	100	1000	
第一區	10	100	1000	
第一區	11	100	1000	
第一區	12	100	1000	
第一區	13	100	1000	
第一區	14	100	1000	
第一區	15	100	1000	
第一區	16	100	1000	
第一區	17	100	1000	
第一區	18	100	1000	
第一區	19	100	1000	
第一區	20	100	1000	
第一區	21	100	1000	
第一區	22	100	1000	
第一區	23	100	1000	
第一區	24	100	1000	
第一區	25	100	1000	
第一區	26	100	1000	
第一區	27	100	1000	
第一區	28	100	1000	
第一區	29	100	1000	
第一區	30	100	1000	
第一區	31	100	1000	
第一區	32	100	1000	
第一區	33	100	1000	
第一區	34	100	1000	
第一區	35	100	1000	
第一區	36	100	1000	
第一區	37	100	1000	
第一區	38	100	1000	
第一區	39	100	1000	
第一區	40	100	1000	
第一區	41	100	1000	
第一區	42	100	1000	
第一區	43	100	1000	
第一區	44	100	1000	
第一區	45	100	1000	
第一區	46	100	1000	
第一區	47	100	1000	
第一區	48	100	1000	
第一區	49	100	1000	
第一區	50	100	1000	
第一區	51	100	1000	
第一區	52	100	1000	
第一區	53	100	1000	
第一區	54	100	1000	
第一區	55	100	1000	
第一區	56	100	1000	
第一區	57	100	1000	
第一區	58	100	1000	
第一區	59	100	1000	
第一區	60	100	1000	
第一區	61	100	1000	
第一區	62	100	1000	
第一區	63	100	1000	
第一區	64	100	1000	
第一區	65	100	1000	
第一區	66	100	1000	
第一區	67	100	1000	
第一區	68	100	1000	
第一區	69	100	1000	
第一區	70	100	1000	
第一區	71	100	1000	
第一區	72	100	1000	
第一區	73	100	1000	
第一區	74	100	1000	
第一區	75	100	1000	
第一區	76	100	1000	
第一區	77	100	1000	
第一區	78	100	1000	
第一區	79	100	1000	
第一區	80	100	1000	
第一區	81	100	1000	
第一區	82	100	1000	
第一區	83	100	1000	
第一區	84	100	1000	
第一區	85	100	1000	
第一區	86	100	1000	
第一區	87	100	1000	
第一區	88	100	1000	
第一區	89	100	1000	
第一區	90	100	1000	
第一區	91	100	1000	
第一區	92	100	1000	
第一區	93	100	1000	
第一區	94	100	1000	
第一區	95	100	1000	
第一區	96	100	1000	
第一區	97	100	1000	
第一區	98	100	1000	
第一區	99	100	1000	
第一區	100	100	1000	



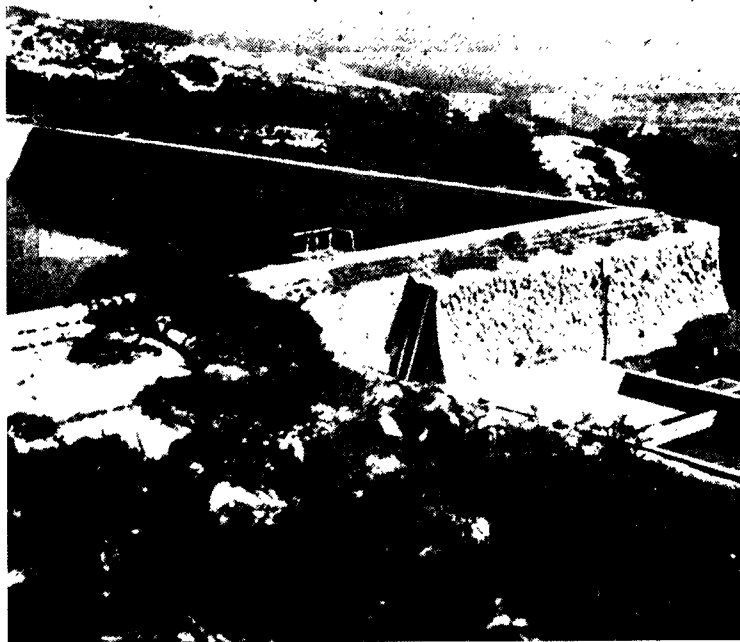
六麓莊經營地區劃圖

（圖面文字及圖例詳見說明書）





六 麓 莊 III



水源池の一部

# 開発当時の



六麓荘に現在も残っている紅葉の滝



児童用プール（休憩所西側）

荘内運動場



テニスコート・ローラースケート

無料休憩所

